

ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017を開催しました

県内の企業・自治体・NPO等と学生が一堂に会し岩手で働くことについて理解を深める交流イベント「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017」を11月19日(日)、岩手大学第一体育館で開催しました。

この交流会は、当協議会が厚生労働省岩手労働局やふるさといわて定住財団などと「ふるさと発見！大交流会 in Iwate 実行委員会」を組織して開催したものです。当日は県内の企業・自治体・NPO・大学研究室など173団体がブース出展し、県内の大学生、高校生を中心に約2,000名が来場しました。



各ブースでは、出展者と参加者の距離が近くフレンドリーな雰囲気の中で自社製品のデモンストレーションで技術をアピールしたり、クイズ形式で参加者を巻き込みながら自社をPRするなど、各団体がそれぞれ趣向を凝らしたプレゼンテーションを行い、学生も積極的に質問するなど交流を深めました。

最後まで楽しんでもらう工夫として、来場者一人ひとりに配付された「お気に入りシール」を各ブースに設置したパネルに貼って魅力的なプレゼンテーションを行った団体への投票を行ったり、出展団体からご提供いただいた様々な景品が当たる抽選会を実施したりするなど、会場は終始笑顔と活気にあふれ盛況のうちに閉会となりました。

参加した学生からは「気軽に質問ができて話しやすかった」、「仕事の楽しさが伝わった」、「はじめは岩手の企業にはそれほど興味はなかったが実際に話を聞いてみると企業の熱意を感じ興味湧いてきた」といった声が数多く寄せられました。就職に対して漠然としたイメージしか持っていなかった学生にとって、県内で働く人々の日々の仕事や抱えている思いなど実感がこもったリアルな声は心に響くものがあったようです。今回の結果を踏まえ、今後も若者の地域定着に向けて、一步一步着実に活動を展開していきます。



交流会は、県内企業を知らない若者が多いことから、従来の採用直結型の就職説明会とは異なり、まずは若者に県内企業を知ってもらい、岩手で働き岩手で暮らす魅力を発見してもらうことを意図したもので、今回が初めての開催でした。

出展者・来場者はネクタイ・スーツ着用禁止とし、お互い肩肘を張らずに気軽に楽しいイベントを目指したほか、県内大学・高専生からなる学生実行委員会がイベント名称やロゴマークの発案、SNSを活用した広報活動をはじめ、約50の出展団体の事前取材、当日の司会進行など随所で重要な役割を担い、若者目線に立ったイベントとすることができました。

交流会は、県内企業を知らない若者が多いことから、従来の採用直結型の就職説明会とは異なり、まずは若者に県内企業を知ってもらい、岩手で働き岩手で暮らす魅力を発見してもらうことを意図したもので、今回が初めての開催でした。

併催フォーラム

当日の午前中に、交流会の併催事業として岩手大学総合教育研究棟(教育系)において8つのフォーラムが同時並行で開催されました。インターンシップ、ベンチャー企業など多岐にわたるテーマで、形式もパネル・ディスカッションや授業体験など幅広いラインナップとなりました。各会場には多くの参加者が来場し、急遽座席を増やす会場も出るなど、活況を呈しました。



フォーラム名称	主催者
学生向けインターンシップフォーラム 「インターンシップを知る～社会への第一歩を考えるあなたへ～」 “働くジブン、未来のジブン” ～若手大学OGと「職と生き方」について考える～	東北インターンシップ推進コミュニティ 岩手大学男女共同参画推進学生委員会、 ふるさといわて創造協議会地域定着WG
公務員のライフスタイル～ある市職員の日常やしごとから～	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
未来を創るベンチャー企業、若手社員の本音トーク ～公務員、大企業だけじゃない！ワクワクして働かない？～	ふるさといわて創造協議会雇用創出WG
学内カンパニー：会社を作ってみよう！	岩手大学起業家支援室
大学はおもしろい！ー理工学への誘いー	岩手ネットワークシステム
最前線の遊び方 ～デジタルエンタテインメントは始まったばかり～	岩手県商工労働観光部商工企画室
授業体験ー課題解決力の向上を目指そう！ー	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会

参加高等教育機関の取り組み状況 ～杏林大学(東京都三鷹市)～

杏林大学は、理系・文系の4学部と大学院3研究科からなる総合大学として、人々の健康を守るための実践的な教育と国際人の育成を目指し教育研究に取り組んできました。それぞれ特色のある学部・学科が互いに連携し合って、きめ細かい少人数の教育・研究を行っています。建学の精神である「真善美の探究」を心に抱き、国際的な視野と地域への貢献という2つのテーマに人材の育成に取り組んでいます。

地方創生のキャリア指導

平成28年に岩手県での企業バスツアーに学生が参加し、岩手県内の企業や市役所を見学し進路選択に役立つ情報を得ることができました。また、定期的実施しているキャリアサポートセンター主催の地方就職促進活動では、教育・研修プランナーの方をお招きして、地方のインターンシップにおけるポイントなどの講義と、岩手県内の企業等で行う実践型インターンシップと岩手

大学の学生が企画したインターンシップの情報提供と、インターンシップへの参加と勧奨を推進しています。

岩手の特産物を活用した活動

岩手県の魅力の拡充策として、三鷹市内の企業と協働し岩手の地域産物をアピールするビジネス活動に取り組んでいます。ふるさとにおける食品や食材は地元経済に貢献し、その名産品は増えていることに注目し、井の頭キャンパスのある三鷹市において広く紹介することを目的としています。学生が岩手の特産物を使った企画のプレゼンテーションをする機会を設け、地域産物を活用したメニューの開発、レシピや活用方法を学生目線で創作し「ふるさと岩手」の魅力を広く一般に提供します。保健学部の北林蒔子准教授の監修のもと、地域活性化の実現をあらゆる角度からサポートしています。

第3期いわてキボウスター開拓塾を開講しました

10月14日(土)、第3期いわてキボウスター開拓塾が開講しました。第3期生は岩手大学10名、岩手県立大学3名、盛岡大学2名、一関工業高等専門学校4名に加え、今回初めて岩手県立大学宮古短期大学部から1名参加しています。



今期は第2期同様、学生はビジネスに必要なマーケティング、ファイナンスなどの知識を学びながら、それぞれ所属する地域リーダー(ゼミ長)の指導のもとでビジネスプランを作成します。

プログラムは10月28日(土)から29日(日)にかけて八幡平市で行われた合宿でスタートしました。合宿1日目は日本版CCRC(※)施設の「オークフィールド八幡平」や地熱と馬ふん堆肥を活用した循環型農業に取り組む「ジオファーム八幡平」などを視察しました。2日目は一般社団法人MAKOTOの堀江洋生氏の講義やゼミを担当する地域リーダーのプレゼンテーションを受講し、その後のチームディスカッションで所属ゼミを決定しました。



様々な所属の個性豊かな面々が集まった第3期生が、お互いに刺激を受けながら今後の活動

を有意義なものにしていてほしいと思います。

※CCRC(Continuing Care Retirement Community): 充実した医療介護サービスの下で高齢者が共同生活する地域共同体

第3期地域リーダー(ゼミ長)

セルズベクト株	岩淵 拓也さん
株キャッセン大船渡	臂 徹さん
Olahono	渡邊 里沙さん
株銀河農園	橋本 正成さん
株エディシオンズ	金谷 克己さん

参加学生の声



千田 萌実
岩手県立大学4年

私には夢があります。それは、岩手の地域を活性化させ、たくさんの人に岩手の魅力を伝えることで希望を与え、日本の幸福度を上げること。私は歌うことが大好きなので、歌を通じてその夢を叶えたいと考えています。

この講座(キボウスター)に参加した動機は、素敵な仲間に出会い共に成長したいと思ったからです。この願いは初回の講義ですぐに叶いました。参加以前は、夢を共有出来る仲間がいなく、孤独に感じることもありましたが、ここには話せる友達がいるので、最初の懇親会で泣いたほど感動しました!

また、多くの関係者を通じて新たな出会いが常にあります。そのお陰か、不思議な事に、受講後は必ず将来に繋がる出会いや次の目標が出来て、人生が進んでいる感じがし、とても楽しい気持ちになるのです。

わたしの夢の最終目標は、岩手の観光大使になって、紅白にも出ること! まだ始まったばかりですが、人として成長して夢を叶え、皆さんに恩返ししていきたいと思っています。

その他の実施事業

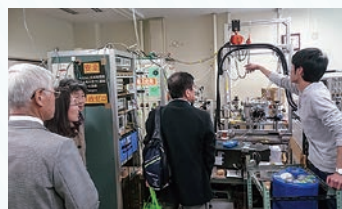
夏のインターンシップ実施状況

県内では今年の夏も様々なインターンシップが実施されました。県内高等教育機関全体の状況を見ると、9月末時点での延べ参加者数は525名と昨年度実績734名を約200名下回る結果となっています。これは全国的に企業説明型の1dayインターンシップが企業側にも学生側にも人気となっており、従来の1週間程度の就業体験型インターンシップへの参加者が減少傾向となったことなどが要因と考えられます。一方で、地域志向型インターンシップの実施地域・参加者については、昨年度の2地域22名から今年は4地域64名と大きく増加しています。

今後、春季インターンシップの実施に向けて学生への説明会を予定しており、学生に県内企業の魅力を知ってもらう機会のさらなる充実に努めていきます。

産学連携研究室ツアー

10月21日(土)、岩手大学祭(不來方祭)と同日に開催されるオープンキャンパスに合わせて「産学連携研究室訪問ツアー in 不來方祭2017」を開催しました。このツアーは、当協議会の新産業・雇用創出ワーキンググループが岩手大学三陸復興・地域創生推進機構と共同で開催したもので、産学連携に関心のある企業・団体の関係者20名が4グループに分かれて同機構の教員・スタッフのアテンドによりA1、ロボティクス、食品加工など理工、農学分野など13研究室を訪れ、岩手大学での最先端の研究活動の一端に



触れました。